



掲示板 第13号

巻頭言にかえて

- 報告 全国の動き
- 報告 千葉県の動き
- 損保講習会報告
- グループ訓練講座報告
- 高次脳交流会報告
- 小児パンフレット完成
- インフォメーション

- 1
- 2~4
- 5
- 6
- 7
- 7
- 8
- 8



心よりお見舞い申し上げます

〔東北地方太平洋沖地震被災者の皆様へ〕

この度は、千年に一度という大震災でした。しかし、千年前にはなかった原子力発電所の事故という、ものすごい災害が付け加わりました。震災に遭われた皆様は、今も辛い厳しい生活を送っておいでのことでしょうか。水は出ない、電気は来ない、ガスは使えない、食べる物はない等々、明日どうなるか分からない不安の中、避難された方々が互いに励まし合っておいでの様子をテレビで見えています。けれど、これも千年前にはなかった通信網があり、日本国内だけでなく世界中から痛みを分かち合おうと励ましの声が届けられています。

こうしたときに『災害が多発している昨今、日本自閉症協会では早急に対策をたてる必要を痛感し、専門家の協力を得て、防災ハンドブック「支援者向け」「本人・家族向け」の2冊を出版いたしました』とある、日本自閉症協会のハンドブックを手にしました。高次脳機能障害者も、同じように変化に対応することが困難です。千葉でも、通勤が困難を極めています。職場での動きも緊急体制で、周りの動きが変則的になることもあると思われれます。いつもより疲れが溜まり、これまで感じられなかった痛みなど身体症状に出る方も多くおいでです。まだまだ高次脳機能障害支援の中味は不足していることが多いと、今回の震災を受けて感じていきます。

被災地の皆様に、一日も早く穏やかな日常が戻って来ることを祈っています。私たちもまた、被災地の皆様のがんばりに励まされながら、一人一人に丁寧な支援が出来るようがんばりたいと思います。

支援コーディネーター 太田 令子

全国の動き

■ 第二回高次脳機能障害普及事業および厚生労働科学研究費「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」第二回全体会議の報告

開催日 平成23年2月25日(金)

場所 全国町村議員会館

国リハ及び各ブロックからの実績報告がされた。国リハでは23年度10月をメドに高次脳機能障害情報・支援センターが設置されるとの報告があった。千葉県からの実績報告については別途記載してあるので、ご参照願いたい。

以下に各ブロック報告から特徴的なことを簡単に挙げてみたい。北海道ブロックでは、連絡会議のメンバーに市及び道の保健所が参画していることが目を惹いた。また、支援普及事業をさらに細分化して、各機関の機能に見合った支援事業が委託されていることが特徴である。東北ブロックでは、年2回のブロック会議と別に支援コーディネーター会議を開催し、各県の支援状況を確認する取り組みがなされている。北陸ブロックでは、富山県高次脳機能障害支援センター(高志リハ)がセンター利用者および当事者・家族会会員の協力を得て、生活実態調査を実施した。印象に残ったのは、日中活動や行動で必要と思われる支援に関し、半数以上が「特になし」と回答していたことである。障害の重い人たちのものという発想がおると同時に、日中活動保障に対する幅広いサービスがまだまだ不十分で当事者・家族が思いつかない現状があるのではないか。全国的に自動車運転評価に対する取り組みは進んできているが、富山県での4年間に亘る取り組みの報告がされていた。近畿ブロックでは支援普及事業が浸透していくことで、支援拠点機関の許容量を超えた利用希望者の対応に追われているとの声があった。中国ブロックでは、各県が独自の事業展開を図りながらも活発な支援事業を展開している様子がうかがえた。九州沖縄ブロックでは、産業医科大学が平成20年度に実施した中等度高次脳機能障害者数の調査を実施(2.3人/10万人)したが、今回は北九州市身体・精神手帳の診断書に基づく患者推定調査を行い重度障害者も含めた数として7.6人/10万人と推定。中等度と遭わせると9.9人/10万人と推計されるとの結果が示された。

ただし、今後問題となるであろう軽度者の推計は非常に困難であるとの予測が述べられた。また高次脳機能障害の評価のうちTMTおよびWCST・慶應・F・S版の15歳から30歳(15・19・20・24・25・30歳の3区分)の標準値調査を実施した。また、長年に亘って研究されてきている自動車運転適性評価(健常者202名の値を使って標準値設定)の研究では、高次脳機能障害者9名の左右注意配分に関する結果が報告された。

なお、午後からは「高次脳機能障害と福祉機器」をテーマに中山剛(国リハ)氏の司会でシンポジウムが開催された。千葉からも安田清(千葉労災)氏の報告(主として認知症患者に対する福祉機器支援があった。実に日常的な視点で工夫がされており、楽しい話の中に貴重な提案が読み取れた。後半は深津玲子(国リハ)氏司会で、当事者家族の声として日本脳外傷友の会(東川悦子氏)、全国脳卒中友の会連合会(米澤祐之氏他)、全国柔道事故被害者の会(小林恵子氏)の報告があった、特に小林氏の報告からは、日本の学校教育に於ける柔道指導のあり方の問題が極めて深刻であることが説明された。

平成22年度 千葉県高次脳機能障害支援普及事業報告

第二回高次脳機能障害普及事業および厚生労働科学研究費「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」第二回全体会議で千葉県実績として報告したものの一部です。

1. 千葉県高次脳機能障害支援ネットワークを活用し地域生活を充実させるための支援

千葉リハビリテーションセンターを県支援拠点機関とし、旭神経内科リハビリテーション病院および亀田メディカルセンターを地域支援拠点機関として指定した。また、H23年1月に、障害福祉・精神保健・急性期医療・障害者雇用・教育・市町村行政等、およびPT等医療専門職の代表を含む各界からの委員で構成された千葉県高次脳機能障害支援ネットワーク連絡協議会を開催した。

平成22年度

2. 県内支援拠点機関等主催の高次脳関連研修会開催状況

① 千葉リハビリテーションセンター主催

23年1月に開催した「第7回高次脳機能障害リハビリテーション講習会」等3回 延べ参加者数：約500名

② 亀田メデイカルセンター主催

22年12月に開催した「南房総リハビリテーション・ケア文化祭」等 延べ参加者数：約550名

3. 「小児期受傷・発症の高次脳機能障害者への支援実態調査について

厚生労働科学研究費「高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究」の「青少年期の就学支援」に関する研究として全国の支援拠点機関に調査の協力をお願いした。いくつかの支援拠点機関からは現在調査を進めている報告は受けているが、実際調査結果が送られてきている件数では、小児期受傷・発症の高次脳機能障害児者の支援実態を明らかにするにはまだ十分ではないので、引き続き調査協力をお願いしたい。

4. 「高次脳機能障害を持ち認知リハビリテーションを受けた患者の社会的帰結」調査

千葉リハビリテーションセンターの倫理委員会において承認後、調査実施。現在12例国リハに送付済み。3月末までにあと5症例の登録が可能と思われる。

5. 千葉リハビリテーションセンター独自事業

① 平成21年度末から、小児版支援ガイド(パンフレット)作成の基礎データとするため、当センター外来フォロー中および当センターが関わっている小児家族会の協力を得て、小児の生活支援ニーズ調査を実施。35名の有効回答を基に、小児版支援ガイド(パンフレット)を作成し、3月11日発行。

② 高次脳機能障害者の生活実態定点調査

平成18年度より隔年で、当センター利用の高次脳機能障害者に対して、就労者・地域在宅者・就学者の生活実態調査を行ってきている。本年も該当する年度であり、現在調査項目の最終調整を進めている。調整がつき次第該当者約500名に調査票を送付予定。

6. 旭神経内科リハビリテーション病院の特色

千葉県の西北部に位置し、地域リハ広域支援センターとしての事業および認知症高齢者への医療的・社会的支援と関連させながら、市町村と協働で患者・家族会の支援等を展開している。

7. 亀田リハビリテーション病院(亀田メデイカルセンター)の特色

南房総地域の医療の拠点であり、様々な医学的・社会的支援を総合的に展開している。特に高次脳機能障害に関する支援としてはドライビング・シミュレーターを用いての評価を実施しており、11月末現在で延べ45件の自動車運転個別支援を実施している。

8. 地域生活支援推進のための、県内支援事業者との連携を深めていくための課題

① 県支援拠点機関および2つの地域支援拠点機関が特性を活かし支援事業の展開を図っているが、さらに多くの関係機関と協力して支援ネットワークの強化を図っていく必要がある。各支援拠点機関が連携しながら、県内各地域で支援の格差が大きくなるような支援プログラムの浸透を図るための課題を共有化する必要がある。

② 就労および職場定着支援・復職支援や復学支援・社会生活適応をめざした事業者への支援等、県内各分野や地域が抱えている課題がある。これらの課題に対し、各支援拠点機関が問題を共有し、互いに協力して課題解決に当たれるような担当者会議を開催する。

支援コーディネーター 太田 令子



■第二回コーデイネーター全国会議

開催日 平成23年2月24日(木) 場所 全国町村議員会館

今回の会議では、午前中に①軽度外傷性脳損傷(MTBI: Mild Traumatic Brain Injury)の講義と②生活版ジョブコーチの講義、午後からはグループワーク形式で生活版ジョブコーチの演習が行われました。

①については、(1) 行政的「高次脳機能障害」の診断基準は基本的には従来通りである。現段階では画像にて異常所見は認められないが、神経心理検査等に於いて明らかな高次脳機能障害の存在を示す一群がいる。従って画像所見の有無だけで本障害の存在を判断されるものではない。このことは、画像に所見が無い頭部外傷を全て軽度外傷性脳損傷と診断されるものではない。(2) 後遺障害の症状の程度を表すものではない。(3) 発症・受傷時の重症度を基準に診断されるものである。

今回改めて軽度外傷性脳損傷の診断に関する基礎的な知識を学ぶ機会となりました。正しく理解をせぬまま、つい名称の印象から画像に写らない軽度な脳損傷を指すとイメージを持つてしまいがちだと思えます。支援に携わるには、正しい理解が必要と再認識させてもらう良い機会にもなりました。このMTBIの診断については、今後、さらに検討されていくものと思われれます。

②の生活版ジョブコーチについての報告です。2006年に名古屋総合リハビリテーションセンターは、家族が行っている支援の内容や程度を明らかにする目的で「在宅ケアニーズ調査」を実施しました。生活版ジョブコーチは、この調査結果に見られる『社会活動について障害が軽くても本人に任せることができず、問題解決などに支援を要する度合いが高い人たち』に対する支援のひとつのプログラムとして考えられたものでした。

これまでに、生活版ジョブコーチ(生活適応援助者)の手法を広めることや支援コーデイネーターの業務の一つとして取り入れられるよう推進されてきています。

実践報告として滋賀県立むれやま荘の「生活訓練の取り組み」と京都博愛会病院の「地域における生活支援×生活適応援助者派遣試事業の事例」の二つのいいねい取り組み報告がありました。

午後のプログラムは、小グループに分かれてアセスメントからプランニングを行う演習を行いました。事例を使った演習で、支援項目洗い出しシート(N2法)を用い、大項目を達成するために必要な小項目、さらにその小項目を実現させるために必要な要素を洗い出し、支援の手順を見える形にするところを行いました。この演習により、見える形にする一つの手法として体験学習をすることができました。

参加するたびに感じることであります。この会議では新しい情報・他道府県の取り組みなどを知り、学べる貴重な機会であり、他道府県で頑張っている支援コーデイネーターの方々の姿に励まされ、自分たちも頑張らなといけないと後押しされる思いになります。また次回、各都道府県で頑張っている支援コーデイネーターの方たちと顔をあわせ、学ばせていただくとともに、自分たちの取り組みや課題も伝えていけるよう、日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。



地域連携部 森戸

千葉県高次脳機能障害支援ネットワーク会議の報告

開催日 平成 23 年 1 月 7 日(金) **場 所** 本庁舎 5 階大会議室

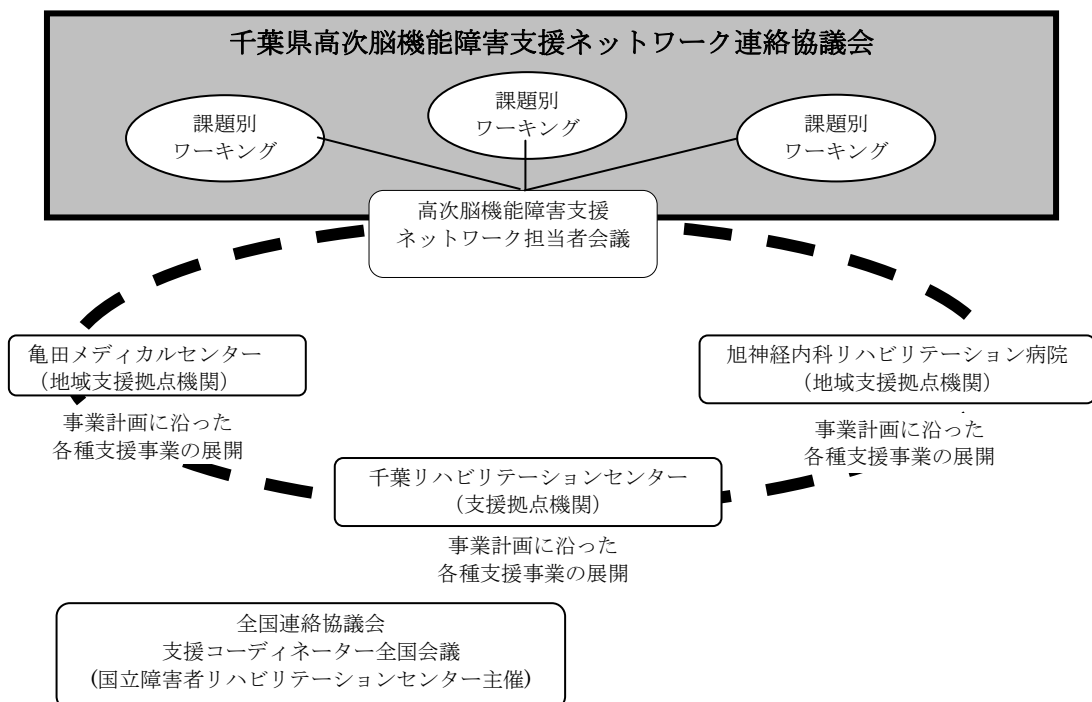
参加者 各支援拠点機関、県行政保健・就労・教育・関係部署、救急医療センター、障害者職業総合センター・キャリアセンター等障害者就労支援機関、千葉市・松戸市・鴨川市各障害福祉担当部署、当事者・家族会、リハ専門職職能団体の各代表が委員として出席

乗越障害福祉課長の挨拶の後、(1)会長に千葉リハビリテーションセンター 吉永勝訓センター長、副会長に旭神経内科リハビリテーション病院 旭俊臣病院長が選任されました。



(2)本会議の要綱および本県における高次脳機能障害支援について、県障害福祉課から説明がありました。その中で、本会議の役割と本県高次脳機能障害支援事業との関係に関するイメージ図が提示されました。この中で、本ネットワーク連絡協議会承認のもと、県内3ヶ所の支援拠点機関が別途担当者会議を開催し、県内共通の課題の検討や支援方法に関する協議を重ね問題解決に当たるための課題別ワーキンググループを立ち上げることが了承されました。(3)各支援拠点機関から本年度(と言っても既に 3/4 四半期が過ぎているのですが)事業の計画が報告されました。概要については「第2回高次脳機能障害支援全国連絡協議会及び厚生労働科学研究費“高次脳機能障害者の地域生活支援の推進に関する研究”第2回全体会議」にて、千葉県報告として掲載しましたのでご参照下さい。

ディスカッションの中で、太田から、各支援拠点機関のあり方として、地域リハのように担当地域割りの活動だけでなく課題領域別の活動を考えていきたいと提案しました。幸い本県の3ヶ所の支援拠点機関は地域リハ支援センターを兼務しており、地域の把握やネットワーク形成は既に調い始めているためでもあります。 **支援コーディネーター 太田**



損保

■第7回高次脳機能障害リハビリテーション講習会報告

開催日 平成23年 1月15日(土)
場 所 千葉市文化センター

今回の講習会では、更生園利用者による報告会「更生園ガーデニングの活動報告会」と、昭和大学医学部精神医学教養准教授三村将先生による「前頭葉の働き・障害をどう評価するか」の講演を行いました。

「前頭葉の働き・障害をどう評価するか」の講演では、高次脳機能障害の概念、注意、遂行機能などに対する評価やアプローチについての話から、社会的行動障害について専門的にかつ幅広く話をしていただきました。この講演についての参加された方々のアンケートでは「専門的な内容で少し難しかった」という声もありましたが、「社会的行動障害に対してのアプローチについて学べた」「評価に基づき、現在の行動を客観視しながら、少しずつ整理していくことの大切さを学んだ」などの意見も多く、医学的な評価に基づいた対応の必要性をもっと学びたいという意見もいただきました。



三村将先生による講演場面

「更生園ガーデニングの活動報告会」は、参加された方々のアンケートに「いきいきとして素晴らしかった」「トリオ・ザ・ガーデンの報告はとても良かったという声や「高次脳機能障害の方に対するアプローチについて、とても大事な要素が分かりやすく具体的に発表されてとてもよかった」「興味深く参考になったなどの声がありました。



ガーデニング発表をする更生園利用者
右から古屋さん・竹林さん

私も会場で、発表者と聴講されている方々が一体となっているのを感じながら、聞かせていただきました。

今後、講習会で取り上げて欲しいテーマを見ますと、「診断評価」「リハビリテーション」「生活支援」「就労」など、それぞれ関わっている立場や時期によって、知りたい知識や情報がさまざまであることを再認識させていただきました。引き続き、高次脳機能障害支援拠点機関として積極的な広報啓発の展開をし、その一環として講習会等の実施も行っていきたいと思っております。

地域連携部 森戸

ガーデニング報告会のまとめ

1月15日、千葉市文化センターにて更生園でのプログラムであるガーデニングの報告を行いました。報告を行うにあたってまず、報告当日に向かうまでのおおまかな工程を決め、それから1ヶ月に1度集まり、発表する内容をまとめあげていきました。

まとめあげる作業において大変だったことは、自分の伝えたいことを文章にすること、またその言葉遣いでの表現です。自分達だけで作って伝えようとする、長々しくなってしまうたり表現が難しくなってしまう、そういう時は太田部長の力をお借りし、相手に上手く伝わるよう3人で一丸となり本番の資料を作り上げていきました。

作り上げる過程において太田部長の文章をまとめあげる力に驚き、今回とても勉強になりました。本番では200名の前での発表という初めての体験で最初は緊張しましたが、発表が進むにつれ会場の様子を見渡せる余裕もうまれスムーズにしゃべれるようにもなり、発表の中でも成長できたと思います。

次回またこういう機会があれば今回の経験から得た自信を活かしさらに満足いく発表ができればと思います。

(古屋 竹林)

《更生園ニュースから抜粋》

■高次脳機能障害のグループ訓練講座報告(Ⅱ)

開催日 平成22年2月10日(土)
場 所 神田グリーンホール

この講座は2部構成で、四ノ宮美恵子氏による「復学のためのグループ訓練」と長野友里氏による「軽度脳外傷者の自己認識訓練」の講義であった。四ノ宮氏の講義では、FFGW(感情交流法)を紹介していただき、講義の中で体験する機会が設けられた。6人程度でグループを構成。提示された具体的な「もの」から自由に感情を喚起させ、感じたことを相互に話し合うのだ。今回提示された「もの」は複数枚の折り紙。名称を敢えて言わないことで、それを「折り紙」として捉える者・色」として捉えイメージを連想する者など、様々な発想を可能とする。何を連想するかによってその人らしさを垣間見ることが出来る。初対面であっても打ち解け易く和やかな雰囲気が進められた。短時間ではあったが、自分では思いつきもしなかった意見を聞くことができ、とても刺激的なFFGWであった。

一方、長野氏の講演で紹介されたグループ訓練は、まず枠組みを定める。そのテーマに沿って進めていき、その中で気づきを促していくというものだ。今回紹介して頂いた2つのグループ訓練は対象的な方法であった。

どちらも興味深いものであり、目的・対象者を考慮した上で実施することにより、効果的なグループ訓練とすることができるのであろう。普段グループ訓練に携わる機会があまりないため、参加者として体験することが出来たことは貴重な経験であった。

地域連携部 岡部

■第9回高次脳機能障害交流会報告

開催日 平成23年3月5日(土)
場 所 千葉リハ 大ホール他

今回で9回目となる交流会、90名を超える参加をいただき、開催できました。

前半の全体会では「東倉菜の花(高次脳機能障害者と家族の会)」の編貫幸枝様から、TKK(NPO法人東京高次脳機能障害協議会)の企画に参加された「スウェーデンの脳損傷者福祉事情視察」の報告を行っていただきました。

現地で撮影してきてくださったスウェーデンの写真をご覧ください。報告会では「スウェーデンの福祉の充実」に感動した「報告が面白かった」「スウェーデンのような福祉の街になってほしい」など、アンケートにも多くの声寄せられました。

後半の分科会では、「小児」「更生園」「成人」そして「当事者」と大きく4つのグループに分かれての話し合いの場を持ちました。

「小児」グループでは、このたび当センターが発行した「小中高生のための支援ガイド」の内容についての説明をし、続いて懇談会を行いました。3家族に参加いただき、共に高校生を持つご家族でした。受傷・発症からの期間には差がありましたが、共通の話題として、退行や自発性の話題や将来のことがあげられ話し合われました。経過の長い方からは経緯をお話しながら、スタッフは制度についてなどの説明をするなどを行い、受傷から間もない方にとっては、安心につながる機会となったようでした。

「更生園」グループでは、自己紹介と自宅で困っていること、相談したいことを話していただきました。現在、更生園を利用中の家族、これから利用してみようと思っている家族から参加していただきました。

更生園利用後の、より豊かな生活が送れるようになって欲しいという希望や更生園がどんな支援を行うところかを知りたいなど、ご家族の希望でもあり心配でもある「本人のこれからの生活」に対するそれぞれの思いと更生園への期待が多く聞かれました。

「成人」グループは、「親」き後」のことをテーマにしたグループを2つとフリーのテーマで話し合うグループを1つ作って話し合いました。お互いに持っている今後の不安として話がありました。答える出るテーマではありませんが、経済面、住まい、金銭管理などの心配な点が多くありました。また、本人だけでなく家族と一緒にケアが受けられるような住居形式があったら安心できるなど、より安心した形で地域に住み続けられる社会を思い描くような話題もありました。

「当事者」グループでは、自己紹介の後「本日はやりたいこと」ということで当事者に投げかけ、当事者より「最近ハマっていること、発症してから今までの経過、好きな食べ物」のテーマが挙げられ、それぞれに発言があり、復職した参加者への質問で「復職後の人間関係に変化があったか？」という質問があり、「人間関係は変わりない。自分の疾患を自覚して、自分は注意障害があるからわかりやすく短く伝えてほしい、など他者に伝えられることが大事。」と話されました。実際に体験をした当事者の方からのメッセージであり「他者に自分の障害を理解してもらったことが大事」という話に対し、「ためになった」との参加者の声がありました。その他、趣味の話など当事者同士で話が弾んだ和やかな会でした。

最後に、報告をしていただいた編貫様、そして参加いただいた皆様、まことにありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

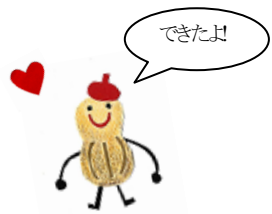
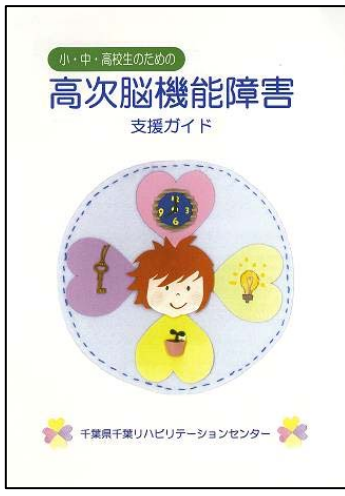
地域連携部 森戸

小児パンフレット完成!!

小児高次脳支援ガイドでは、「高次脳機能障害の概要」「子ども
の高次脳機能障害の特徴」「相談・支援機関」などの情報に加え、
「Q & A」として子どもたちとご家族の困り感や対応方法の具
体例を掲載しております。この部分は、小学校・中学校・高校に
在籍中の当センター支援対象者や家族会会員35名のご家族にご
協力いただき平成21年度に「小児高次脳機能障害の生活支援ニ
ズ・障害実態調査」を実施し、併せて隣接する千葉県立袖ヶ浦特
別支援学校にて高次脳機能障害の子どもたちの指導にあたってお
いでの先生方のお知恵も借りながら作成したものです。家庭や学
校生活面で、ご家族や先生方が試行錯誤をされ見出すことがで
きた有効な対応方法を、具体的にたくさん教えていただくことが
できました。アンケート調査・面接調査にご協力いただいた皆様
と一緒に作りあげたパンフレットです。家庭や学校で、高次脳機
能障害の子どもたちに関わる際のヒントがたくさん詰まっていま
すので、ぜひご活用ください。

高次脳機能障害の正しい理解と適切な対応により、子どもたち
が心身ともに健やかに成長していくことを願ってこのパンフレッ
トを世に送り出したいと思えます。

小児高次脳プロジェクト 廣瀬



インフォメーション・おしらせ *information*

NPO 法人 東京高次脳機能障害協議会(TKK)主催
高次脳機能障害のグループ訓練<2011年 講座>

日時 ■ 2011年5月28日(土)10:00-16:00
会場 ■ (株)エッサム貸会議室 こだまホール
内容 ■ 講義1 上田幸彦氏「心理的ケアをめざしたグル
ープカウンセリング」 講義2 吉田香里氏「いきがいのつ
いてのグループカウンセリング」
問合せ ■ 主催:NPO 法人東京高次脳機能障害協
議会(TKK) info@brain-tkk.com

小児パンフレット完成を受けまして、編集部ではこ〜じのう掲
示板発送先に支援ガイドを一緒にお送りしました。
小児高次脳機能障害支援ガイドを冊子にして発行いたしました。
小児支援をターゲットにしたパンフレットは全国でも初めて
ではないかと思われます。子どもたちに関わる大勢の関係者、ご
家族のために、障害の正しい理解と適切な対応の支援ガイドとし
て多くの方に役立てて欲しいと思っております。数に限りはあり
ますが、パンフレットをご希望の方は下記のアドレスにて受付
いたします。

千葉リハ 地域連携部
kouji@chiba-reha.jp

謹んで地震災害の
お見舞いを申し上げます
この度の東北地方太平洋沖地震・長野
県北部を震源とする地震により被害を
受けられた皆様に、心からお見舞い申し
上げます。
一日も早く復旧、復興されますよう心
からお祈り申し上げます。
編集部 一同



ガーデニングで植えたチューリッ
プが満開です。季節は春なんです
ね。芽吹く植物を見ていると心が
少し穏やかになります。